

第5学年 国語科学習指導案

日 時：平成30年11月30日（金）

場 所：浜田市立国府小学校 5年教室

指導者：佐々木 泰子

- 1 単元名 椋鳩十さんの作品を読んで感じたことを伝え合おう
教材「大造じいさんとがん」（東京書籍5年）
- 2 学 級 雲城小学校 5年 男子6名 女子14名 計20名
- 3 単元について

【つきたい力】

- 物語の全体像をつかみ、登場人物の魅力や情景描写などの優れた表現を味わいながら、物語を読むことができる。
 - ・登場人物の行動や会話文、地の文に描かれている情景など、人物の心情が読み取れる叙述を見つけ、心情を想像する。
 - ・出来事の流れと関連させながら、登場人物の心情の変容とその理由を考える。
- 物語を読んで感じたことを友達と伝え合い、互いの考えを高めることができる。
 - ・叙述を基に考えたこと、作品から感じたことを友達に伝える。
 - ・友達の考えを聞き、友達の伝えたいことを感じ取り、自分の考えに生かす。
 - ・物語から感じたことや考えたことをリーフレットにまとめ、紹介する。

【単元で取り上げる指導事項】

- Ｃ読むこと（1） エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること
- オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること

【教材の特質】

本教材は、猟師である大造じいさんが獲物となるがんの頭領残雪によって変容していく様子を描いた作品である。この物語には、大造じいさんと残雪の行動に感動させられるものがあり児童に生き方について語りかけてくる魅力ある作品である。また、登場人物の心情が情景描写や擬音語で表されており、表現の効果を学ぶのにも適した教材である。

椋鳩十さんは、「感動が人を変える」と訴え、動物を題材にした作品を数多く書き、読書活動を推進した方である。本教材の学習を生かして、椋鳩十さんの他の作品も読むことで、作者の伝えたいことをより感じとったり、感動を味わったりすることができると思う。

【本単元にかかわる子どもの実態】

<個人情報保護のため省略>

4 研究とのかかわり

(1) 児童が読みたくなるような課題の設定【考えをもつ】

読み取っていく際は、児童から出てくる問いを大切に。「物語には、何か伝えたいものがある」ことや「何が変わったか、どう変わったか、どうして変わったか」を常に考えながら読むように、読み深めるための視点は児童に伝えておく。構成や出来事の流れを読み取った時点で、児童の疑問点や考えの違いなどから生まれる問いから課題を作り、児童が解決したいと意欲を持って主体的に取り組めるようにする。

本教材の魅力を味わうためには、残雪の英雄的な行動やそれに心打たれる大造じいさんの人柄、猟師としての誇りなど、登場人物たちの魅力ある生き方を感じなければならない。特に、「大造じいさんの残雪に対する心情の変容とその理由を読み取る」ことが大切である。まず、「この物語の中で何が変わっているか」を児童に問いかけ、大造じいさんの残雪への見方が変わっていることに児童が関心を持ったところで、「大造じいさんにとって残雪はどんな存在なのか（存在になっていくか）」を単元を通しての課題として設定できるようにしたい。それを考えることで、児童が物語全体から大造じいさんの心情やその変容の理由を追究できると考える。出来事ごとに大造じいさんにとっての残雪を「大造じいさんと〇〇」とまとめ、変容をとらえやすくする。

本時では、「大造じいさんの気持ちが大きく変わったかのはどこか」を考える。今までの学習で「物語全体を通して最も大きな変化が起こる重要なところ」が山場の場面であることは学習しているので、山場を中心に大造じいさんの心情や変容の理由を読み深めていく。

(2) 相手意識や目的意識をもつような話し合い活動の場の設定【高め合う】

単元を通して「大造じいさんにとって残雪はどんな存在なのか（存在になっていくか）」について、自分の考えを明確にしていくために話し合っていく。一人読みや支援の必要な場合はグループ読みの段階で、出来事ごとに「大造じいさんと〇〇～残雪」と自分の考えを持っておくようにする。自分の考えに友達からの理解を得るために、どこでそう考えたのか叙述から根拠を挙げて伝えるようにする。

本時では、「大造じいさんの気持ちが大きく変わったところはどこか」について話し合い、自分の考えの理由を伝え合うことで、「どうして変わったのか」変容の理由を読み取っていきたい。学習のまとめとして、大造じいさんにとって残雪がどういう存在になったかを確かめる。グループの方が話しやすいという児童の実態があるので、全体で話し合う前にグループの話し合いを取り入れる。ここでは、意見をまとめず、自分の考えを伝えることを主な目的とし、自分の考えに自信を持ったり、友達の考えを聞いて見直したりし、自分の考えを形成する手助けとしたい。全体の話し合いでは、グループ以外の友達の考えを聞くことで、互いの考えを共有し、高め合うようにしたい。全体の話し合いでも、必要に応じてグループで児童が相談し合える場を設ける。

5 単元の目標と評価基準

○物語を読んで考えたことを話し合ったり、感じたことを伝え合ったりし、思いや考えを高める。		
国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
物語を読むことに興味をもち、感動的な場面や優れた表現を味わって読もうとしている。	叙述から登場人物の心情の変容とその理由をとらえようとしている。	人物の心情や動き、情景が効果的に描かれている表現に気づき、その効果について考えようとしている。

6 単元の指導計画と評価計画（全 12 時間）

次	時	目標	主な活動	評価			
				国	読	言	評価基準（評価方法）
1	1	教材を読み、初発の感想を伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> 物語を読み、最初に感じたを伝え合う。 設定と登場人物を確認する。 「椋鳩十さんの作品を読んで感じたことを伝え合う」という学習の見通しを持つ。 	○			物語を読むことに興味をもち、感想を伝えようとしている。 （発言、ノート）
	2						
2	3	物語の構成と大筋をつかみ、課題を作る。	<ul style="list-style-type: none"> 出来事と山場をとらえ、場面ごとに題をつける。 物語の大筋をつかむ。 この物語の追及したいことを話し合い、課題を作る。 		○		物語の構成を理解し、場面ごとの出来事をとらえている。 （発言、ノート）
	4						
3	5	登場人物の心情の変容とその理由を叙述から読み取る。 （課題を解決していく）	<ul style="list-style-type: none"> 情景描写を見つけ、その情景が表す大造じいさんの心情を考える。 児童の問いから作った課題を解決していく。 ※予想される課題 「大造じいさんの気持ちが大きく変化したところはどこか」 「残雪はなぜ、おとりのガンを助けるのか」 「大造じいさんは、卑怯なのか」 「残雪を見送る大造じいさんはどんな気持ちか」 			○	心情を表す情景描写に気づき、その効果について考えている。 （発言・書き込み）
	6						
	7						
	8 本時						
9							
4	10	この作品から感じたことを伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> 物語を一文でまとめる。 心に残った場面や表現、この作品から感じたことを伝え合う。 		○		物語が伝えたいものを自分なりに読み取っている。 （発言・ノート）
	11 12	椋鳩十の他の作品で感じたことを伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> 椋鳩十さんの他の作品のあらすじ（一文）と心に残った場面と情景描写などの優れた表現、感じたことなどをリーフレットにまとめる。 まとめたものを紹介し合う。 	○			物語や作者が伝えたいものについて考えようとしている。 （発言・リーフレット）

7 本時の学習（第3次8時間目）

(1) 本時のねらい

叙述から想像して登場人物の心情の変容とその理由を考え、話し合いながら自分の思いや考えを高めることができる。 【読む能力】

(2) 本時の展開

学習活動	教師の支援	評価 (評価方法)
1 学習課題を確認し、課題を解決できそうな場面を音読する。	・課題を考えながら、音読するように助言する。	叙述から想像して、変容とその理由をとらえ、話し合いながら自分の思いや考えを高められている。(発言・ノート・書き込み)
<p>大造じいさんの気持ちが大きく変わったところはどこか</p>		
2 課題について、話し合う。 ①グループで自分の考えを友達に伝える。友達の考えを聞く。 ②全体で話し合う。考えを聞き合ったり、質問し合ったりし、友達の伝えたいことを聞き取り、良いと感じたところを自分の考えに生かす。 ③まとめる。	・考えとその理由を根拠になる叙述から大造じいさんの心情を想像して、伝え合うようにする。 ・グループでは、考えがまとまらない児童は、賛成できる考えはないかしっかり聞くように助言する。伝え合えたら、話し合いに発展してもよいことにする。 ・必要に応じ、グループの話し合いを取り入れ相談し合えるようにしたり、なぜ、大造じいさんの残雪への見方が変わったのかを考えるように助言したりする。	
3 大造じいさんにとって残雪はどういう存在になったか確認する。 「大造じいさんと〇〇〇残雪」		
4 本時の学習をふり返る。 ・課題は解決できたか振り返る。 ・学習全体を振り返る。	・課題についてと学習全体についてふり返る。学習全体のふり返りでは、本時の感想などを伝え合う。	

(3) 本時の評価

十分満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援を必要とする児童への指導の手立て
叙述から想像して登場人物の変容とその理由を考え、積極的に話し合いながら自分の考えの根拠を明確にしたり、友達の考えの良さを取り入れたりして、思いや考えを高めている。	叙述から想像して登場人物の変容とその理由を考え、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら、思いや考えを高めている。	注目する叙述を示したり、賛成できるものはないか考えながら友達の考えを聞くよう助言したりする。

(4) 研究の視点

- ・課題は、児童の学習意欲を高め、自分の考えを持つことができるものであったか。
- ・「気持ちが大きく変化したところはどこか」に焦点をしばって考えたことは、積極的に話し合い、互いの思いや考えを高め合うのに有効であったか。